

# ごんげんどうづつみ　くきせつの花に思いをよせてく

学しゅうした日

月

日



わたしは、きよ年の春に東京から幸手に引っこして来ました。

(友だちとなかよくできるかな。まわりはどんなところかな。)

はじめての引っこしに少しドキドキしていました。わたしの家のすぐ近くには、ごんげんどうづつみがあります。ちょうどさくらがまんかいでした。引っこしをおえたわたしは、さっそくつつみにあがってみました。つつみの向こうがわには、黄色いなの花もいちめにさいています。さくらの花びらがひらひらと風にまっつて、まるでさくらのトンネルを歩いているようです。わたしは、だんだんやさしい気もちにつつまれました。あたらしい生活へのふあ人もわすれてしまいました。

わたしは、ごんげんどうづつみにときどきさんぽに出かけることにしました。

雨のきせつになりました。むらさきや青、白、うすいピンク……。あじさいの花がさきはじめました。色とりどりの花が、雨ふりでつまらなそうにしていたわたしに、「元氣を出して。」と話しかけてくれてるようです。小さな花がよりあつまつてさいているあじさいの花を見ると、わたしのこころは、いっしゅんで明るくなりました。

あつい夏がおわり、さわやかな秋の風がふきはじめました。土手いちめにまつ赤な花がさいています。ひがん花です。べつの名前では、「まんじゅしゃげ」ともいいます。どこまでもつづくまっ赤な花……。しばらく見ていたら、わたしのこころの中にやる気がわいてき





ました。ふと気がつくくと、わたしのかたに、赤とんぼがとまっていたいました。赤とんぼは、すみわたる空にすっととんでいきました。その先には、まっ青な空が広がっていました。

さむい冬がやってきました。幸手にも雪がふり、ごんげんどうづつみは、雪げしようとなりました。さくらの花のころのにぎわいもなく、あたりはしずまりかえり、シーンとしています。

数日たって、つつみに行ってみると、水せんの花がさいています。北風の中で、

「がんばって。がんばって。」と言ってくれているようです。寒さにもまけないで、いっしょうけんめいにさく水せんの花

を見て、わたしは、ゆう氣をもらいました。

引っこしをして、一年。ごんげんどうづつみは、いろいろなことを教えてくれました。そして、この自ぜんは地いきのほぞん会の方がたがそだててくれているということも知り、うれしくなりました。わたしは、ごんげんどうづつみが大すきになりました。

● みぢかな自ぜんを見て、いいな、すごいな、と思ったことには、どんなことがありますか。

